

「一帯一路」建設と龍江全面振興ハイレベルフォーラム

ERINA 調査研究部研究員 南川高範

2016年6月15日、「一帯一路」と北東アジアの協力に関するフォーラムがハルビン市内のホテルで開催された。中国、日本、韓国、ロシア、モンゴルの五カ国から100人を超える参加者が出席し、意見交換を行った。参加国別では中国に次いで韓国からの参加者が多く、韓国側の「一帯一路」建設に対する関心の高さがうかがえる。日本からはERINAの他、日中経済協会、北海道大学スラブ研究センター、福岡アジア都市研究所が参加した。このフォーラムの目的は、「龍江シルクロード帯」建設を進めることでこの地域の全面的な振興を促し、旧産業のハイテク化と社会制度の効率化につなげることである。

会議のスケジュールは開幕式、大会スピーチ、分科会の三部で構成されており、分科会は外国からの参加者を交えたグループと中国方みのグループに分かれて議論が交わされた。筆者が参加した外国の参加者を交えたグループでは各国から様々な意見が出された。モンゴルからは、モンゴルの基礎的経済条件から考えられる「一帯一路」戦略下のモンゴル側の可能性を、ロシアからは、グローバル社会の情報化に伴う東ヨーロッパと中国の経済協力の可能性を、韓国からは北東アジアの経済協力を前提とした産業育成戦略の紹介がなされた。そして日本からは、北東アジア諸国の基礎条件の変化を考慮して、これまでの生産要件の相互補完の関係性から新しい協力発展の形を模索する提言がなされた。

また、分科会の合間に、黒龍江省社会科学院北東アジア研究所名誉研究員・特別研究員の証書授与式が行われた。名誉研究員証書は日本からERINAの新井洋史調査研究部

長・主任研究員を含む2名、モンゴルから2名に授与され、特別研究員証書は中国の1名に授与された。

フォーラム開幕式の最後に、北東アジアシンクタンク連盟の始動式典が執り行われた。北東アジアシンクタンク連盟は中国の中央政府の指針に基づき、北東アジア地域で研究活動を行っているシンクタンク間の連携を強化し、この地域の発展に貢献することを目的として設立されたものである。ERINAも同連盟の設立メンバーとして参加している。連盟の性質はシンクタンク連盟に加盟している多国間の交流を主とした組織と位置付けられており、国際シンポジウムやフォーラムによる意見交換を活動の場とするものである。「知るだけでは不十分である。活用しなければならない」という言葉があるが、国際的な学術的交流により関連な議論が行われることで知を活用することが、この地域の安定と発展に寄与することを期待したい。



「北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話」第3回国際会議

ERINA 調査研究部主任研究員 中島朋義

6月16～17日、モンゴル外務省の主催によりウランバートルで開催された「北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話」第3回国際会議(Ulaanbaatar Dialogue on

Northeast Asian Security III International Conference)に参加した。同会議では北東アジアの安全保障問題を主題とし、開催国モンゴル、日本、中国、ロシア、韓国、北朝鮮